

会 議 報 告 書	
会 議 名	令和4年度第1回草津市社会教育委員会議
日 時	自 10時00分 令和4年6月22日(水) 至 11時30分
場 所	草津市役所4階 行政委員会室
出 席 者	委員：横山委員(委員長)、長橋委員(副委員長)、北川委員、内田委員、 山元委員、藤内委員、矢野委員、磯嶋委員、澤村委員、中瀬委員 事務局：増田部長、田中総括副部長 図書館 二井館長 生涯学習課 上原課長、廣政課長補佐、井上主任 傍 聴 人：0名
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有(別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無

1. <<部長挨拶>>

2. <<議事>>

<<委員長挨拶>>

皆さんおはようございます。

今回今年度最初の会議でございますが、今期の我々の委員のメンバーとしましては最後の会議となります。

この2年間、コロナ禍のせいもあって、なかなか十分な活動も難しかったところでございますが、何とか委員の皆様、そして事務局の皆様のおかげで報告書を完成することができました。

今日は皆様方から今期の取組みに関わることや草津市の社会教育生涯学習に関するご意見等をいただきたいと思います。私も3期この会議に関わることになりましたが、前々期に提案した体系的な生涯学習システム、いわゆるみらくるカレッジ構想が、完全な形で草津市にないというのは、非常に忸怩たる思いがありますが、今後も教育委員会部局のみならず、市長部局とも連携し、全庁的な人づくりの仕組みというものを構築していただきたいということを改めてお願いを申し上げたいと思います。本日の会議後、副委員長と一緒に教育長さんに報告書を提出させていただきますので、皆様からもご意見を賜りまして、我々の思いとして、教育長さんにお伝えしたいというふうを考えております。よろしくお願いいたします。

《議事1》読書ボランティア養成の取り組み実績について

資料1により事務局から説明

《議事2》報告書について

事務局から説明

《委員意見》

A委員

この前、私の知人の息子さんが育休を3カ月取られるという話を聞いた。時代が変わってきたなあ実感している。ママだけでなくパパも読み聞かせの大切さを分かってもらえるような講座があると、時代の流れにあっていると思う。

B委員

今、帰国子女の方の会がなにか活動を始めようとしていると聞きました。英語絵本を使ったボランティア活動をされることになるかもしれない。また、帰国子女として帰ってこられた高校生の方が、スキルを活かして、読み聞かせにチャレンジしたいという話もきいた。そういう若い方々に頑張っているだけでいいと思うし、前例にとらわれず、時代の流れを見据えて、デザインしていくことが大切だと思う。

また、男女共同参画課と一緒にやっている起業事業で、子育て支援という観点で、絵本や子育ての際に役立つ本等を貸し出すプライベート図書館が開設された。このような社会問題や課題をターゲットとしたような起業の形ができたのは新しい流れであるし、まちづくり協議会だけに任せるのではなく、様々な主体が課題の解決に向けて動いていくことが大切。

また、様々な活動がボランティアということで、無償の活動となっているが、若い世代や新しい層を巻き込んでいくためには、お金が必要になってくると思う。予算があって、事業や人が回っていくという仕組みをみんなで作っていく必要もあると感じている。

C委員

今期の取組みの中で、読書ボランティア受入活動の団体調査リストを作成して、報告書の資料編に盛り込んでいただいた。このリストはとても大切なものだと思うので、リストをまとめて終わり、ではなく、この団体と連携した事業を継続して行ってほしい。

D委員

北川委員の意見でもあった、パパ向けの講座は是非実施してほしい。お話をやっているとお父さんと一緒に参加されることが増えているし、ニーズもあると思う。

この前、少年刑務所での絵本を使った取組についての講演会に参加した。少年刑務所の子供たちが絵本を通して心を開いていくという内容であった。改めて絵本は素晴らしいツールだなと思った。

今後も草津市で絵本に関わる事業に力を入れていってほしいと思う。

E委員

養成講座については、今後も受講生のフォローを続けていってほしい。例えば今回参加された方が、お友達と一緒に読み聞かせをされる等、新たな広がりがでてくると良いと思う。

また、今回の取組みで行政内でも横の連携で事業を進めていただいたが、全庁的に見た場合、連携はまだ不十分だと思う。実際に私を訪ねて3つの市の部局が相談に来られた。それぞれに目的は違うのかもしれないが、やろうとしていることは、似ているような話だった。行政内でも情報の共有が大切だと思う。

F委員

私も養成講座に参加して、ココルひろばで読み聞かせの体験を行った。修了された16名の方ともつながりたいと思うし、今後、養成講座受講生と一緒にできる取組を考えていけたら良いと思う。

G委員

私設の図書館を市民活動としてやっておられる団体の方とお会いすることがあり、絵本や本がまた見直されているのではないかと最近感じている。澤村委員の活動されていたゆめほんデイに偶然通りかかって様子を見ていたが、いろいろな年齢の人が読み聞かせを聞かれていたのがとても印象的だった。

自分は不登校や学校に行きづらい子どもたちのために、フリースクールの取組を行っているが、活動の中で子ども達をもてなすのではなく、それぞれに役割を持たせるという方針で活動している。

自分の活動だけでなく、色々な場面でもそれぞれの方が役割をもって活躍できることが、重要なのだと思っている。

H委員

今期実施した養成講座について、いろいろな要因があったと思うが、若い人が少なかったことは残念だった。皆さんの意見を聞いていると絵本や読み聞かせは、若い人でも地域と関わり合いをもちやすい分野・ツールなのかなと感じた。

副委員長

私の専門分野は、幼児の発達心理学なので地域でのボランティアの活動等に関しては知見が浅かったが、この会議でいろんなことを勉強することができた。

みらくるカレッジという構想の下行われた今期の取組みだが、言い換えれば、これは学んだことを地域に返していくという、教育の再生産というものに当たると思うが、その軸として絵本や読み聞かせを選んだというのは、とても良いことだったと考えている。

今日の委員の意見としてもあったが、読書や読み聞かせの価値が見直されているというのは、ICT

やデジタル化の時代だからこそだと感じている。ICTやデジタル化は、個人の力を増大させるものではあるが、使い方を間違えると危うい代物でもある。そんな時代だからこそ他の人の生活や心を想像する、思い出す、関心を持つというような、本当の意味での人の心を作るといことが、これからの社会教育の中でも必要になってくることなのだと思うし、そのためには読書や絵本の読み聞かせが大事になってくるのかなと感じる。

今期の取組みで養成講座を受講された方が、実際の活動を始まられていることは確実な成果であると思うし、今後も草津市において絵本の読み聞かせや読書に関わる活動を続けていってほしいと思う。

委員長

人生100年時代といわれるなか、人口減少社会と少子高齢化社会が同時に到来しており、地域が疲弊してきている。また、行政は財政難で予算を組めなくなっている。そんな中、行政だけで地域支えることも難しくなっている。だからこそ公・共・私の役割分担の元、市民協働が必要不可欠となっている。そのうえで、地域の皆さんに頑張ってもらって部分にエンパワーメントしていくことが重要であると考えている。

一方、私は他の自治体でも市民協働に関わる委員に就いているが、ほとんどの自治体で役割分担を整理できていない。また、地域にどんな活動をされている団体がどれだけあるかも把握し出来ていない。今期の取組みで作成した読書活動に関する団体のリストを全政策分野で作成する必要があり、そのうえで、その方々に学びという観点で支援を行うべきであると考えている。

そしてなにより、人々が幸せに生きるためには学びが必要。そして学んだことを実践したり、人に教えたりすることも人々の喜びにつながる。そういう意味でも、社会教育・生涯学習と地域づくり・まちづくりは、表裏一体で進めていく必要があり、この価値観を市役所全体で共有していくべきであると思う。

《質疑》

社会教育の観点から生涯学習課としてまちづくり協議会との連携についてどう考えているのか。

→

まちづくり協議会との連携は非常に重要であると考えている。地域の学びをどのように進めていくかということについて、まちづくり協働課とも連携しながら事業を進めていかなければならない。

《その他》

事務局から滋賀県立図書館協議会委員の公募についてお知らせ

《閉会》